

W. anomala の原標本である Hoang-hai-to (Faurie-nos. 642, 661) 及び對馬 (Faurie-no. 1630) 産を調べてみると、植物體は Cardot 並に Brotherus の記すように、なるほど *W. Cardoti* にくらべて小さい。又兩氏は *W. anomala* は葉は狭く線狀と記して、實際の標本についてみても、葉縁が巻き込んでいとはいえ、その傾向がいくらか認められる。然し圖 (Fig. 3-1,2) に示したように、*W. Cardoti* と區別される程のものではないようである。又その他、兩氏が區別點として記したことも、その意義が乏しいように思われる。京大の標本室には尙 *W. anomala* と銘うつた對馬産の標本 (Faurie-no.1633, 1901 年 5 月) がある。之は莖がやゝ長い、前記のものと同種である。本種の莖柄について、Brotherus は長さ約 7 mm と記すが、原標本でしらべると、no. 642...約 4mm, no. 661... 3~5mm, no. 1630...3.5~6mm, no. 1633...4~6mm 程度のもので、矢張り *W. Cardoti* のものと變つたものでない。よつて筆者は、*W. anomala* は *W. Cardoti* の異名になるべきものと思う。

3) こまのこごけもどき. *Weisiopsis coreensis* (Card.) Broth. l. c. 9 (Fig.3).

本種の葉形は可り異つて、*Hyophila* 屬のものに似た外形を有して、葉細胞も *W. Cardoti* にみるように、泡狀に膨出せずに平坦である。元來この種は不實の標本で設けられたもので果して *Weisiopsis* 屬にみられるような特異な子囊體を具えているかどうかは疑問であつて、寧ろ以前通りに *Hyophila* 屬に入れておくのが適當かも知れない。

オイボクサの種名 Keisak は Siebold の門人二宮敬作であらう (前川文夫)

Fumio MAEKAWA: Specific epithet Keisak probably derived from the name of Mr. Keisaku Ninomiya, a pupil of Siebold.

イボクサ *Aneilema Keisak* Hassk. Commeinac. Ind. 32 (1870) の種名の語源については牧野先生が圖鑑の正誤表で敬(?)作という人に由來するかとされて以來加える處がなかつた。Keisak によく似た學名にコウヤミズキの異名 *Corylopsis Kesakii* S. et Z. があり、ヒュウガミズキの條下 Fl. Jap : 49 (1824) に記載も伴わずに九州の山地で Mr. Kesak が *Coylopsis* の第三種として發見したとしてある。日獨文化協會編シーボルト研究 : 37, 41, 55 (昭 13) によるとシーボルトの初期の門人に二宮敬作がある。文政 6 年 (1823) に S 氏來朝の年に早くも弟子になつた人で當時 S 氏 27 歳敬作 20 歳の青年であつた。ついでだが同書にこの事を記してヒュウガミズキのことを *Corpolapsis pantibora* アハモチとしたのは誤植も甚だしい。S 氏の植物採集は當時のポイテンゾルフ植物園長 Blume を通じて和蘭政府の依頼であつたから、和蘭へ同氏からわたした資料が多い。その中に門人の採品がまじつていたことはありうる。Miquel が Prolusio : 306 (1866-67) にひいた Hasskarl の手記名のもとには Siebold が Iwayagama (岩屋山の誤記であらう) でとつたもので Keissak jap とあり人名とはわからぬまゝに日本名をケイサクと思つた節は十分にある。前後の事情から長崎北方の岩屋山麓で二宮敬作がとつたものであると見たい。